



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯科病院長 榎 宏太郎

「先進的な医療がもたらすもの」

歯科臨床においても様々な先進的な技術が導入されて来ております。歯科用CTをはじめとして、CAD/CAM技術、光学印象、さらには再生医療と、多岐に渡ります。私が卒業した三十年前には特殊な治療であったものの、その後の研究成果や歯科材料の発達によって、今では一般的な治療法となりつつあるものが数多くあります。より優れた治療法を誰でもが出来るということは素晴らしいことであり、国民医療に大きく貢献するものです。大学で研究を続ける者としての喜びの多くもここにあります。



しかし、その一方で、最近、医療技術の進歩に付随した別の問題にも気付かされます。それは、1) 歯科医師個々の診断能力は進歩しているのか、ということ、2) 教わっていない不測の事態に対処する十分な能力を身につけているか、そして、3) 卒後に、日々進歩する技術を系統的に学ぶ機会はあるか、という三点です。私の専門とする矯正歯科治療の現状を見ますと、これらがあまり円滑に解決されているとは言えないようです。

例えば、シミュレーション技術を用いて作成される矯正装置が出ると、どんな症例でも治せるとHPに謳う医院が出現したり、自身で治療を開始したものの、どうにもならない状態に陥って他院に紹介したり、さらには、そんなものでは何も治らないと専門医が不適切な中傷を加えたりと、

言わば、負の連鎖です。

このような状況を見ると、私自身が、「科学する」ということをきちんと教えて来なかったことを反省させられます。試験を意識してしまい、覚えてもらうことに終始してしまっております。もっと深く、考え抜かせるような工夫が必要です。

紙面の都合上、具体的な解決案の詳細について述べる事が叶いませんが、とくに、1) に関しては、咀嚼や口腔機能、形態形成、生体力学に軸足を置き、全てを科学的に説明し、顎顔面領域の総合的な診断を出来るような講義が必要です。また、2) については、失敗を学習させること以外に方法は無いようにも思います。しかし、では、どうやって実現するかが問題で

す。「ハドソン河の奇跡」の、あの機長のような歯科医師に育って欲しいのですが、悩みます。3) に関しては、学部や学会を中心として新たな策を見出すべきであろうと考えております。

そして、これらの解決案の具現化こそが、本歯学部を他とは異なる次元へと導いてくれる可能性をも含んでいるように思います。

皆様はいかがお考えでしょうか？

昭和学士会が実施されました

口腔病理学部門 美島 健二

11月28日(土)第62回昭和大学学士会総会が行われました。はじめに、小出学長より開会の御挨拶がなされ、次いで各部より年次報告が行われました。その後、小出学長より、6人の受賞者の方に学術奨励賞の授与が行われました。また、今回の学会では、3つの教育講演が行われ、最初に「小児難聴の診断・治療」と題して、医学部耳鼻咽喉科学講座の小林一女教授により、先天性難聴の診断・治療に関する最新の知見についてわかりやすく解説がなされました。また、続いて「出生前遺伝学的検査の現状と課題」と題して、医学部産婦人科学講座 関沢明彦教授より、母胎血を用いた出生前遺伝学的検査の現状とその可能性や今後の課題について講演がなされました。さらに、「破骨細胞の科学:パイオニア昭和大学の矜持」と題して歯学部歯科薬理学講座の高見正道教授より、須田名誉教授によるRANKLの発見に始まる破骨細胞研究における昭和大学の貢献について講演がなされました。会場はほぼ満席で参加者は熱心に演者の講演に耳を傾けており、活発なディスカッションがなされていました。これに先立ち行われたポスター発表は60演題にのぼり、ポスターを前に活発な質疑応答が行われ、実りの多い学会になったと感じられました。



第8回 IT を活用した教育センターワークショップを開催しました

教育推進室 片岡 竜太

平成24年度に採択された文部科学省の大学間連携共同事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成プログラム」も4年目が終わろうとしています。北海道医療大学、岩手医科大学および9つの歯科医師会が連携して、超高齢社会で活躍できる歯科医師を養成するために3年間にわたる教育プログラムの仕上げに取り組んでいます。第1段階は3年生に対してe-ラーニング教材を活用した「全身と口腔の関連についての基礎知識の修得」第2段階は4年生に対して、症例ベースの授業をVP（模擬患者）システムとe-ラーニングを活用して「臨床推論・コミュニケーション能力の養成」の授業を実際に行っています。現在第3段階として5年生に対して、第1、第2段階で身につけた基本的な知識とその応用を基に、臨床実習（大学付属病院歯科口腔外科実習と地域歯科医療実習）を行うための準備を進めています。

11月26日に、昭和大学旗の台校舎において、54名が参加してITを活用した教育センターワークショップを開催しました。開会式では4月に文科省の中間評価が実施され、本取組がA評価（計画通りの取組）を受けた事が報告され、段階1と2が3連携校で必修授業として実施されている事が報告されました。

第3段階の5年生に対する教育としては、各大学で歯科医師会の協力を受けて実施している地域医療実習や有病高齢者を対象とした臨床実習をより充実したものにするために、以下の3つの教材を準備しています。（1）5年生用復習用ライブラリー：第3段階を学ぶにあたり第1、第2段階で学修した内容をしっかりと復習するためのIT教材。（2）症例課題：第1、第2段階で学修した内容を基盤として、臨床実習で患者さんを担当する前に、シミュレーション学習を行うための症例課題。（3）電子ポートフォリオ：臨床実習で行った内容を振り返り、学びを深める。4月から実施するために、WSにおける討論の内容を踏まえて準備を進めています。今回のWSでは第1段階から第3段階まで3年間の教育プログラムを実施するための、IT教材の全容が明らかになりました。最後のセッションでは各大学と関連する歯科医師会の先生方で、教材案の見直しとともに、本教育プログラムをどのように実施して、「超高齢社会に対応できる歯科医師」を養成するかを検討してもらいました。次回は来年6月に本取組最後のワークショップ開催を予定していますが、本取組が歯科界の明るい未来を築く一助になればと切望します。

最後になりましたが、ご参加いただいた各大学ならびに歯科医師会の先生方、そしてワークショップの運営にご尽力いただいた協力IT企業、ならびに各大学の事務関係者に心から御礼申し上げます。



大学院春季Ⅰ期入試が行われました

大学院運営委員長 井上 富雄

12月5日に標記の大学院入学試験が、外国語（一般英語および科学英語）および専門科目について実施されました。12月16日に合格発表があり、一般選抜8名が合格しました。春季Ⅱ期入試は、平成28年2月13日（土）に行われます。出願期間は平成28年1月12日（火）～年2月3日（水）です。今年度の春季Ⅰ期入試は、昨年度（一般選抜13名、社会人選抜1名）と比べて受験者数が減少しましたが、春季Ⅱ期入試で優秀な大学院志願者が多数受験してくれることを願っています。

武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式が開催されました

歯学部学生部長 上條 竜太郎

武重優秀クラブ賞は、武重千冬学長のご逝去に伴い、武重家からの寄附金を原資として設けられた顕彰制度で、本学の名を宣揚せしめ、かつ最も優秀な成績を上げたクラブに贈られます。平成27年11月2日、平成27年度（第15回）昭和大学武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式が、50周年記念館で開催されました。宮崎昭和大学学生部長が開式を宣し、小出学長の挨拶、小口理事長の祝辞に続き、武重優秀クラブ賞が馬術部に贈られました。また、学長賞をはじめとする優秀クラブ各賞の表彰も行われ、歯学部関連では、歯学部長賞を医学部歯学部バドミントン部が受賞しました。続いて、グリークラブによる校歌斉唱・応援歌、応援指導部による応援エールをもって閉式となりました。



避難訓練が実施されました

口腔病理学部門 美島 健二

本年11月16日(月)16時に避難訓練が実施されました。実際の地震に遭遇した際に、その被害を最小限にとどめるためにも常日頃よりの訓練が必要です。本訓練は東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の大地震を想定し、激しい余震により建物が倒壊する危険性があるため屋外に避難するという設定で施行されました。まず、全館放送により地震発生の指示があり、初期対応として各自揺れが治まるまでは机等の下に入り、落下物から身を守る対応が指示されました。さらに、火元などの確認やドアを開けるなどの避難経路の確保が行われ、その後、地震の揺れがおさまった事を想定し、1号館(B1~2階・7階)、4・5・10・11・12・14号館は中庭へ、1号館(3~5階)、2・3・15号館は上條講堂前へ、そして16号館は、1号館裏の公園(旗の台一丁目特定児童遊園)へそれぞれ避難しました。それぞれが避難場所に到着後、各部署の報告者は避難場所で避難者数を確認し、避難前の在室人数と避難者数を本部に報告し訓練が終了しました。本避難訓練は毎年一回施行されていますが、この機会に初期対応方法や避難経路の再確認がなされ、実際の地震への対策として有意義なものとなりました。



口腔組織培養学会学術大会ベスト プレゼンテーション賞を受賞しました

大学院4年(歯科麻酔学専攻) 平沼 克洋

平成27年11月21日に徳島にて開催された第52回口腔組織培養学会学術大会にて発表しました。口腔組織培養学会は口腔組織・細胞培養という研究手法を共通項にし、口腔外科学や歯科矯正学、生化学等を専門とする臨床系や基礎系の多彩な研究者が集う学会です。矯正や口腔外科など、様々な分野を専門とする方々の発表を見る事ができ、貴重な時間を過ごす事ができました。また、会場となった徳島大学は私が臨床研修を行った兵庫県立淡路病院にも所縁があり、懐かしい故郷の空気のようなものが感じられました。私は今回が大学院における初めての発

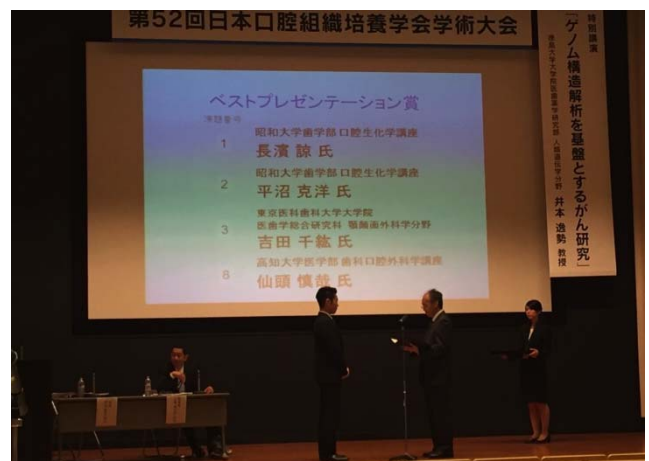
表であり、大変緊張しておりました。徳島大学内の長井記念ホールでの発表における審査を受け、ベストプレゼンテーションという身に余る評価をいただき、大変恐縮しております。これまで本研究のためにご指導、ご協力くださった多くの先生方にこの場をお借りして心より感謝を申し上げます。今回の発表をきっかけに、より一層歯科医師として精進していきたいと思いません。



口腔組織培養学会学術大会ベスト プレゼンテーション賞を受賞しました

大学院4年(歯科矯正学専攻) 長濱 諒

平成27年11月21日、徳島大学長井記念ホールにおいて第52回日本口腔組織培養学会が開催されました。本学会は歯科における様々な分野での基礎研究発表がされており、私の研究テーマとも関連の深い演題が多数あることから参加することとなりました。私は「Cdc42は生後成長期の軟骨形成に重要である」の演題で口頭発表を行いました。発表はとても緊張しましたが、幸運にも平成27年度ベストプレゼンテーション賞を受賞することができました。嬉しいことに、同期の平沼克洋先生(歯科麻酔科学部門)も同賞を受賞し、ともに喜びを分かち合うことができました。最後になりましたが、日ごろよりご指導、ご鞭撻いただいている歯科矯正学講座の榎宏太郎教授、口腔生化学講座の上條竜太郎教授と山田篤講師、そして多くの関係者の方々に心より感謝申し上げます。



日本学生支援機構の優秀学生顕彰 (大賞)を受賞しました

薬学部5年 黒澤 珠希

平成27年12月12日、アルカディア市ヶ谷で開催された日本学生支援機構 平成27年度優秀学生顕彰表彰式に参加しました。優秀学生顕彰は学術、文化・芸術、スポーツなど6つの部門で優れた功績を収めた大学生を、日本学生支援機構が顕彰するものです。今回、私は炎症性サイトカインであるオンコスタチンMによる骨芽細胞制御機序に関する研究で、学術部門大賞を受賞しました。受賞にあたり、山元俊憲薬学部長、板部洋之先生、上條竜太郎先生をはじめ、熱心にご指導くださった山田篤先生、ならびにお力添えくださった皆様へ心より感謝申し上げます。今後より多くの方々に、基礎研究の楽しさや奥深さへ関心を寄せて頂けたらたいへん嬉しく思います。



日本歯科保存学会最優秀若手ポスター 一賞を受賞しました

大学院3年(総合診療歯科学部門) 山田 理

11月12日に開催された日本歯科保存学会秋季学術大会において、松風優秀ポスター賞の受賞式が行われました。受賞した演題は今年の6月25、26日に開催された春季学術大会にて発表したもので、審査員を前にとっても緊張したのを覚えています。その後の質疑応答では今後の研究に対する課題等を自覚することができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。これまでご指導くださった総合診療歯科学の長谷川篤司教授、口腔微生物講座の桑田啓貴教授、有本隆文先生、森崎弘文先生をはじめ多くの先生方に御礼申し上げるとともに、今後も一層精進していきたいと思っております。



日本総合歯科学会最優秀若手ポスター 一賞を受賞しました

臨床研修医(総合診療歯科学部門) 中井 健人

11月21、22日に開催された第8回日本総合歯科学会において、若手ポスターコンペティションで最優秀ポスター賞を受賞しました。演題は「歯科治療に積極的でない患者が臼歯の損失と慢性歯周炎に起因した垂直的学位損失に対する全顎的介入を受け入れた症例」で、池谷先生・浅見先生・矢作先生と、前任の先生方からの数年間の取り組みを引き継がせていただき、それを今回このような形で評価いただけたことを光栄に思います。ご指導いただいた長谷川教授、勝部先生はじめ医局の先生方、同期の研修医に感謝致します。今回の受賞を励みに、患者さんにとって「より満足度の高い医療」を提供していけるよう、今後も努力を続けたいと思っております。



行事予定

広報委員長 中村 雅典

1月16日(土)・17日(日) センター入試
1月26日(火) CBT
1月28日(木) 選抜I期・センター利用I期入試
1月30日(土)・31日(日)
第109回歯科医師国家試験

編集後記

口腔生化学 吉村 健太郎

年末のお忙しい中、原稿を執筆して頂いた先生方に心より感謝申し上げます。楨先生にご寄稿いただいた巻頭言を拝読し、科学に基づいた歯科医療の重要性やその教育の必要性を強く感じました。

また、今月号では大学院生・研修医・学部生の方々の受賞のニュースを多く取り上げました。若い先生方のご活躍をたいへん嬉しく思うとともに、自分もさらに頑張らないといけないと胸が引き締まる思いです。

1月30日・31日にはよいよ第109回歯科医師国家試験が行われます。全員合格を祈っています。

末筆ながら、平成28年が皆様にとって幸多い年になりますようお祈り申し上げます。